
Barcode Filter for CS4 Win

n-project

目次

Barcode Filter へようこそ！	3
作成対応バーコード規格	4
バーコードの規格に関するお問い合わせについて	4
Barcode Filter for CS4 の動作環境.....	5
パッケージ内容	5
Illustrator5.5J/7.0J 対応版から移行されるユーザー様へ.....	5
インストール	6
バーコード作成の基本手順.....	9
JAN 標準.....	11
JAN 標準（OCR 併記）.....	13
JAN 短縮.....	15
JAN 短縮（OCR 併記）.....	17
NW7	19
CODE128.....	21
CODE39.....	24
CODE93.....	26
UPC-A	29
UPC-E	31
ITF	34
物流商品コード	36
ISBN（図書コード）.....	38
ZIP	40
INDUST20F5.....	42
COOP20F5.....	44
ベアラーについて	47
バーコード情報のテキストファイルへの出力	48
テキストファイルからのバーコード自動生成	50
イラストレータのアクションの利用.....	53
FAQ	54
お問い合わせ先	56

Barcode Filter へようこそ！

株式会社 N- プロジェクトの Barcode Filter for CS4 をお買い上げ頂き、誠にありがとうございます。本製品 Barcode Filter for CS4 は、株式会社 N- プロジェクトが開発した、イラストレータ CS 3 上でバーコードを作成するプラグインソフトです。バーコードに変換したい文字を入力し、プラグインメニューからバーコードの形式に対応したフィルタを選ぶだけで、誰でも簡単にバーコードを作成することができます。

作成されたバーコードは、イラストレータのオブジェクトとなるため、イラストレータ上で自由に移動／回転させることができます。

(c)2008-2010 N-Projects Co.,Ltd. All rights reserved.

全ての権利は株式会社 N- プロジェクトが所有しています。

Adobe、ロゴ、Illustrator、Photoshop、InDesign、Adobe Type Manager、ATM、および PostScript は、Adobe Systems Incorporated(アドビシステムズ社) の商標です。

Macintosh、MacOS、QuickDraw、TrueType は米国 Apple Computer, Inc. の商標です。

その他、記載されている会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。

ご注意

どのような状況においても、ソフトウェアと付随する文献の使用により生じた結果として、または故意に、あるいは間接的なダメージを受けたとしても（利益の損失、業務の中断、業務情報の紛失などを含む）、株式会社 N- プロジェクト、または、その開発者、管理者、事務員、従業員、その他の関係者は一切の責任を負いません。これは、たとえ株式会社 N- プロジェクトもしくは株式会社 N- プロジェクトの正規販売員が、このようなダメージを受ける恐れがあることを忠告していた場合も同様です。

作成対応バーコード規格

- JAN 標準 (JIS X0501)
- JAN 短縮 (JIS X0501)
- JAN 標準 OCR 文字併記 (JIS X0501)
- JAN 短縮 OCR 文字併記 (JIS X0501)
- ISBN (図書コード)
- UPC-A
- UPC-E
- 物流商品コード (JIS X0502)
- ZIP (郵便バーコード)
- NW7 (JIS X0503)
- CODE39 (JIS X0503)
- CODE93 (JIS X0503)
- CODE128 (JIS X0504)
- ITF (INTERLEAVED 2of5)
- INDUST2of5 (IDENTICON-INDUSTRIAL 2of5)
- COOP2of5 (生協バーコード)

バーコードの規格に関するお問い合わせについて

当社では、どの規格を使用すればよいのか、ある規格のバーコードをどこまで縮小できるのかなど、バーコードの規格内容に関するご質問にはお答えできません。あらかじめご了承ください。

JIS 規格で定められているバーコードに関しては、作成の注意事項などが JIS 規格で定められています。日本規格協会発行の各仕様をご覧ください。また、JIS 以外の規格で定められているバーコードについても、それぞれ対応する規格があります。詳しくは、該当する規格の仕様書または市販のバーコード解説書をお読み下さい。

また、作成されたバーコードの精度は出力機に依存します。当社では精度に関する保証はいたしません。

Barcode Filter for CS4 の動作環境

Intel® Pentium® 4、Intel Centrino®、Intel Core™ Duo プロセッサを搭載したコンピュータまたは互換機
Microsoft® Windows® XP Service Pack 2（Service Pack 3 を推奨）日本語版、または
Windows Vista® Home Premium、Business、Ultimate、Enterprise Service Pack 1 日本語版
（32bit Windows XP および Windows Vista 対応）
Adobe Illustrator CS4

パッケージ内容

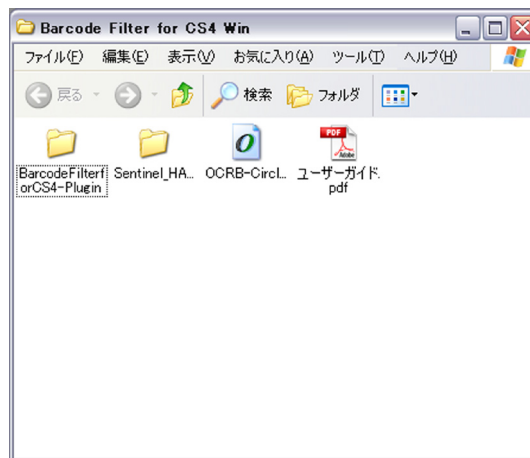
- BarcodeFilterforCS4-Plugin
- Sentinel_HASP_Run-time_setup
- ドングル

Illustrator5.5J/7.0J 対応版から移行されるユーザー様へ

「ITF」フィルタで作成されていたバーコードは本製品では「物流商品コード」で作成されます。本製品の「ITF」フィルタで作成されるバーコードは、「INTERLEAVED 2of5」です。ご注意ください。

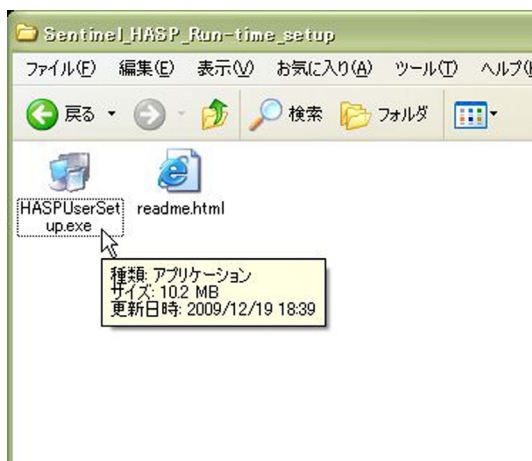
インストール

1. ダウンロードしたファイルを解凍します。解凍後のフォルダの中は下図のような構成になっています。



2. まずdongleのドライバをインストールします。「HASPUserSetup.exe」をダブルクリックします。

すでにインストールされている場合は、再度インストールする必要はありません



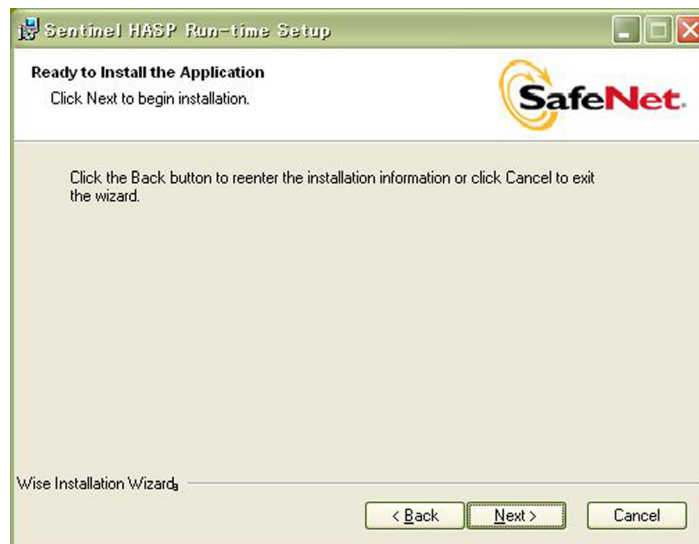
3. 「Next」 ボタンをクリックします。



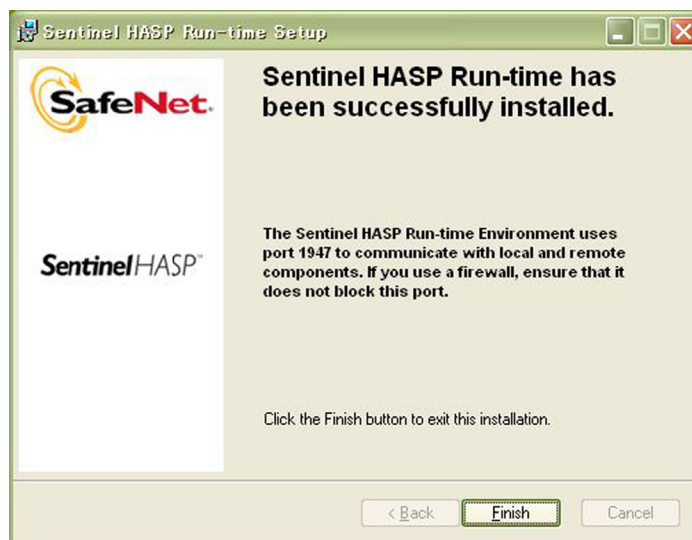
4. 「I accept the license agreement」を選択し、「Next」ボタンをクリックします。



5. 「Next」ボタンをクリックします。



6. 「Finish」ボタンをクリックし、 dongleドライバのインストールを終了します。



7. プラグインファイルをインストールします。「BarcodeFilterforCS4-Plugin」フォルダを Illustrator の「プラグイン」フォルダにフォルダごとコピーします。
8. コンピュータを終了させ、電源が入っていない状態で、付属のdongleを USB ポートに接続します。
9. コンピュータの電源を入れ、dongleの LED が赤く点灯すれば、インストールは完了です。
10. フォントをインストールします。「コントロールパネル → フォント」に OCRB-Circle.otf をコピーしてください。

バーコード作成の基本手順

ここでは Barcode Filter for CS4 がサポートしているすべてのバーコードに共通の操作について説明します。各バーコードには、それぞれ独自の設定項目があります。これらの設定項目については、各バーコードの説明を参照してください。

1. イラストレータを起動します。必要な場合は、新規書類を開いてください。
2. テキストツールを選択し、入力場所をクリックします。バーコードに変換したい文字、数字（半角のみ）を入力します。インデント、カーニング、詰め、行方向と列方向の比率など文字に関する設定は行わないでください。



3. 選択ツールで変換したい文字列、数字列を選択します。複数のテキストパスを選択し、一度に変換することもできます。（テキストツールでドラッグする選択方法では変換できませんので注意してください。）
4. 「オブジェクト」メニュー内の「フィルタ」から「Barcode Filter」を選び、表示されるサブメニューから作成するバーコードを選択します。
5. ダイアログが表示されるので、必要に応じて設定値を入力します。

JAN短縮			
バーコード位置	X軸相対	0	<input type="checkbox"/> ベアラー 幅(mm)
	Y軸相対	0	<input checked="" type="checkbox"/> トンボ
補正値(μ(1/1000mm))		0	<input checked="" type="checkbox"/> OCR
拡大率(%)		100	<input checked="" type="checkbox"/> 情報
高さ(mm)		18.23	
		初期値	Cancel OK

図は「JAN 短縮」を選んだ場合のものです。この図のダイアログを含め、各ダイアログの操作方法については、次の各ページを参照してください。

6.「OK」をクリックします。操作 2 で入力した文字や数字がバーコードに変換され、その結果がイラストレータのオブジェクトとして表示されます。

作成位置について

バーコードは、作成されるバーコードの左上隅が原点に一致する位置に作成されます。原点は、はじめに入力した文字のアンカーポイントの位置（通常は先頭）になります。

Barcode Filter for CS4 では、X 軸／Y 軸を指定することにより、OCR 文字を含むバーコード位置を移動することができます。X 軸にプラスの値を入力すると右へ、マイナスの値を入力すると左へ移動します。また、Y 軸にプラスの値を入力すると上へ、マイナスの値を入力すると下へ移動します。

バーコードは、イラストレータのオブジェクトとして作成されるため、作成後にドラッグで移動することもできます。このため、「バーコード位置」のフィールドは、0 のままにしておいてもかまいません。

JAN 標準

1. 変換したい数字を入力し、選択ツールで選択します。

451941300030

2. [オブジェクト] メニューの [フィルタ] の [Barcode Filter] から [JAN 標準] を選びます。詳しくは P9. ページをお読みください。必要な場合は、次ページの説明を参考に設定値を変更します。

JAN 標準

バーコード位置 X軸相対 0 ☐ ベアラー 幅(mm) 0

Y軸相対 0 ☒ トンボ

補正值(μ(1/1000mm)) 0 ☒ OCR

拡大率(%) 100 ☒ 情報

高さ(mm) 22.86

3. [OK] をクリックします。入力した文字列がバーコードに変換されます。



設定を変更した後でも、[初期値] をクリックすることによって、JIS 規格に準拠した値に戻すことができます。
[Cancel] をクリックすると、バーコードに変換せずにダイアログを消去することができます。

ダイアログについて

The dialog box titled "JAN標準" contains the following settings:

バーコード位置	X軸相対	0	<input type="checkbox"/> ベアラー	幅(mm)	0
	Y軸相対	0	<input checked="" type="checkbox"/> トンボ		
補正值($\mu(1/1000\text{mm})$)		0	<input checked="" type="checkbox"/> OCR		
拡大率(%)		100	<input checked="" type="checkbox"/> 情報		
高さ(mm)		22.86	<input type="button" value="初期値"/> <input type="button" value="Cancel"/> <input type="button" value="OK"/>		

バーコード位置

[X 軸相対] は左右の、[Y 軸相対] は上下の位置を設定します。

補正值

正の値を入力すると各バーが細くなり、負の値を入力すると太くなります。

テストを行った結果、正常にバーコードが認識されない場合に使用します。出力機器（プリンタなど）や印刷媒体に応じて数値を入力してください。

拡大率

100%を指定すると、JIS 規格で規定されているサイズになります。拡大・縮小されるのは、バーコードと OCR 部分で、トンボ、情報の文字のサイズは標準サイズのままになります。

高さ

ダイアログには、短いバーの長さが表示されます。実際に印刷するときの高さを入力してください。拡大率を変更すると、自動的にこの値も変化します。

ベアラー

プラスの数値を入れると角のあるベアラーに、マイナスの数値を入れると角丸のベアラーになります。ベアラーは拡大率の影響を受けません。また、ベアラーをチェックすると [トンボ] のチェックは自動的にはずれます。

トンボ

バーコードの周囲にトンボ（バーコードの領域を示す印刷用のマーク）を追加するかどうか設定します。

OCR

バーコードの下部に OCR 文字を追加するかどうか設定します。

情報

情報を追加するかどうか設定します。[情報] をチェックすると、バーコードの下部に拡大率と補正值が追加されます。

JAN 標準 (OCR 併記)

1. 変換したい数字を入力し、選択ツールで選択します。

451941300030

2. [オブジェクト] メニューの [フィルタ] の [Barcode Filter] から [JAN 標準 OCR 併記] を選びます。詳しくは P9. ページをお読みください。必要な場合は、次ページの説明を参考に設定値を変更します。

JAN標準OCR併記			
バーコード位置	X軸相対	<input type="text" value="0"/>	<input type="checkbox"/> ベアラー 幅(mm) <input type="text" value="0"/>
	Y軸相対	<input type="text" value="0"/>	<input checked="" type="checkbox"/> トンボ
補正值($\mu(1/1000\text{mm})$)		<input type="text" value="0"/>	<input checked="" type="checkbox"/> OCR
拡大率(%)		<input type="text" value="100"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 情報
高さ(mm)		<input type="text" value="11"/>	
		<input type="button" value="初期値"/>	<input type="button" value="Cancel"/> <input type="button" value="OK"/>

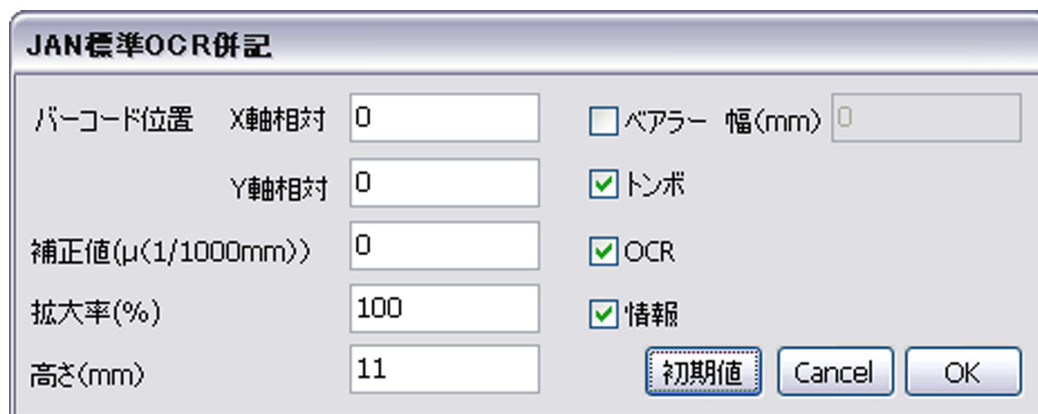
3. [OK] をクリックします。入力した文字列がバーコードに変換されます。



MAG100% BWR0 $\mu(1/1000\text{mm})$

設定を変更した後でも、[初期値] をクリックすることによって、JIS 規格に準拠した値に戻すことができます。
[Cancel] をクリックすると、バーコードに変換せずにダイアログを消去することができます。

ダイアログについて



The dialog box is titled "JAN標準OCR併記". It contains the following fields and options:

- バーコード位置**: X軸相対 (0), Y軸相対 (0)
- 補正值**: $\mu(1/1000\text{mm})$ (0)
- 拡大率**: (%) (100)
- 高さ**: (mm) (11)
- ベアラー 幅(mm)**: (0) (with an unchecked checkbox)
- トンボ**: (checked checkbox)
- OCR**: (checked checkbox)
- 情報**: (checked checkbox)

Buttons at the bottom: 初期値 (highlighted with a dashed border), Cancel, and OK.

バーコード位置

[X 軸相対] は左右の、[Y 軸相対] は上下の位置を設定します。

補正值

正の値を入力すると各バーが細くなり、負の値を入力すると太くなります。

テストを行った結果、正常にバーコードが認識されない場合に使用します。出力機器（プリンタなど）や印刷媒体に応じて数値を入力してください。

拡大率

100%を指定すると、JIS 規格で規定されているサイズになります。拡大・縮小されるのは、バーコードと OCR 部分で、トンボ、情報の文字のサイズは標準サイズのままになります。

高さ

ダイアログには、短いバーの長さが表示されます。実際に印刷するときの高さを入力してください。拡大率を変更すると、自動的にこの値も変化します。

ベアラー

プラスの数値を入れると角のあるベアラーに、マイナスの数値を入れると角丸のベアラーになります。ベアラーは拡大率の影響を受けません。また、ベアラーをチェックすると [トンボ] のチェックは自動的にはずれます。

トンボ

バーコードの周囲にトンボ（バーコードの領域を示す印刷用のマーク）を追加するかどうか設定します。

OCR

バーコードの下部に OCR 文字を追加するかどうか設定します。

情報

情報を追加するかどうか設定します。[情報] をチェックすると、バーコードの下部に拡大率と補正值が追加されます。

JAN 短縮

1. 変換したい数字を入力し、選択ツールで選択します。

4901234

2. [オブジェクト] メニューの [フィルタ] の [Barcode Filter] から [JAN 短縮] を選びます。詳しくは P9. ページをお読みください。必要な場合は、次ページの説明を参考に設定値を変更します。

JAN短縮

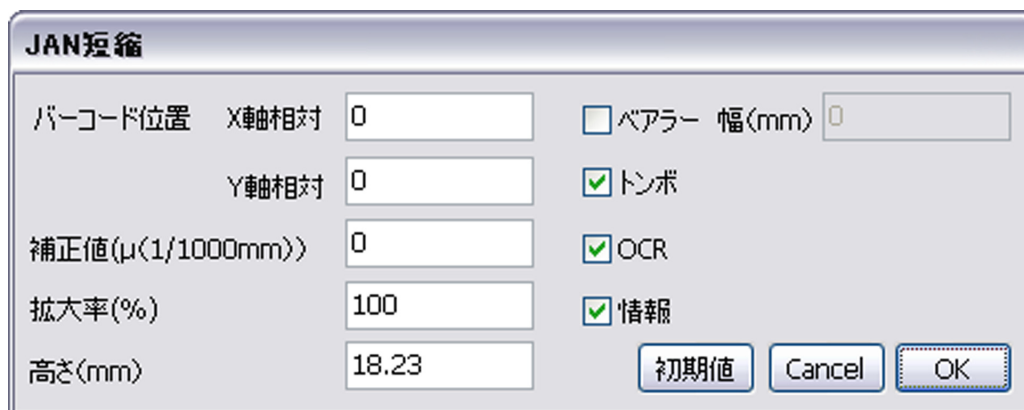
バーコード位置	X軸相対	0	<input type="checkbox"/> バアラー	幅(mm)	0
	Y軸相対	0	<input checked="" type="checkbox"/> トンボ		
補正值($\mu(1/1000\text{mm})$)		0	<input checked="" type="checkbox"/> OCR		
拡大率(%)		100	<input checked="" type="checkbox"/> 情報		
高さ(mm)		18.23	<input type="button" value="初期値"/> <input type="button" value="Cancel"/> <input type="button" value="OK"/>		

3. [OK] をクリックします。入力した文字列がバーコードに変換されます。



設定を変更した後も、[初期値] をクリックすることによって、JIS 規格に準拠した値に戻すことができます。
[Cancel] をクリックすると、バーコードに変換せずにダイアログを消去することができます。

ダイアログについて



The dialog box titled "JAN短縮" (JAN Shortening) contains the following settings:

項目	設定値	オプション
バーコード位置 X軸相対	0	<input type="checkbox"/> ベアラー 幅(mm) 0
Y軸相対	0	<input checked="" type="checkbox"/> トンボ
補正值($\mu(1/1000\text{mm})$)	0	<input checked="" type="checkbox"/> OCR
拡大率(%)	100	<input checked="" type="checkbox"/> 情報
高さ(mm)	18.23	初期値 Cancel OK

バーコード位置

「X 軸相対」は左右の、「Y 軸相対」は上下の位置を設定します。

補正值

正の値を入力すると各バーが細くなり、負の値を入力すると太くなります。

テストを行った結果、正常にバーコードが認識されない場合に使用します。出力機器（プリンタなど）や印刷媒体に応じて数値を入力してください。

拡大率

100%を指定すると、JIS 規格で規定されているサイズになります。拡大・縮小されるのは、バーコードと OCR 部分で、トンボ、情報の文字のサイズは標準サイズのままになります。

高さ

ダイアログには、短いバーの長さが表示されます。実際に印刷するときの高さを入力してください。拡大率を変更すると、自動的にこの値も変化します。

ベアラー

プラスの数値を入れると角のあるベアラーに、マイナスの数値を入れると角丸のベアラーになります。ベアラーは拡大率の影響を受けません。また、ベアラーをチェックすると「トンボ」のチェックは自動的にはずれます。

トンボ

バーコードの周囲にトンボ（バーコードの領域を示す印刷用のマーク）を追加するかどうか設定します。

OCR

バーコードの下部に OCR 文字を追加するかどうか設定します。

情報

情報を追加するかどうか設定します。「情報」をチェックすると、バーコードの下部に拡大率と補正值が追加されます。

JAN 短縮 (OCR 併記)

1. 変換したい数字を入力し、選択ツールで選択します。

4901234

2. [オブジェクト] メニューの [フィルタ] の [Barcode Filter] から [JAN 短縮 OCR 併記] を選びます。詳しくは P9. ページをお読みください。必要な場合は、次ページの説明を参考に設定値を変更します。

JAN短縮OCR併記			
バーコード位置	X軸相対	<input type="text" value="0"/>	<input type="checkbox"/> ベアラー 幅(mm) <input type="text" value="0"/>
	Y軸相対	<input type="text" value="0"/>	<input checked="" type="checkbox"/> トンボ
補正值($\mu(1/1000\text{mm})$)		<input type="text" value="0"/>	<input checked="" type="checkbox"/> OCR
拡大率(%)		<input type="text" value="100"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 情報
高さ(mm)		<input type="text" value="11"/>	
		<input type="button" value="初期値"/>	<input type="button" value="Cancel"/> <input type="button" value="OK"/>

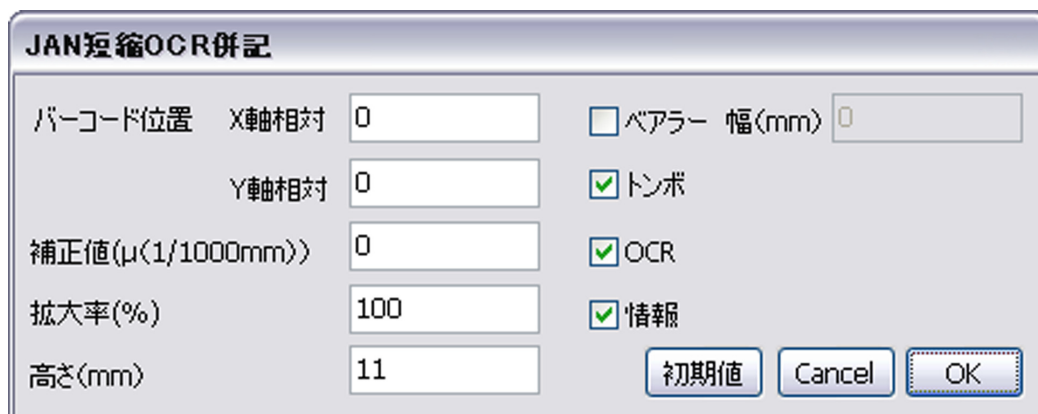
3. [OK] をクリックします。入力した文字列がバーコードに変換されます。



MAG100% BWR0 $\mu(1/1000\text{mm})$

設定を変更した後も、[初期値] をクリックすることによって、JIS 規格に準拠した値に戻すことができます。
[Cancel] をクリックすると、バーコードに変換せずにダイアログを消去することができます。

ダイアログについて



The dialog box titled "JAN短縮OCR併記" contains the following settings:

バーコード位置	X軸相対	0	<input type="checkbox"/> ベアラー 幅(mm)	0
	Y軸相対	0	<input checked="" type="checkbox"/> トンボ	
補正值($\mu(1/1000\text{mm})$)		0	<input checked="" type="checkbox"/> OCR	
拡大率(%)		100	<input checked="" type="checkbox"/> 情報	
高さ(mm)		11	<input type="button" value="初期値"/> <input type="button" value="Cancel"/> <input type="button" value="OK"/>	

バーコード位置

[X 軸相対] は左右の、[Y 軸相対] は上下の位置を設定します。

補正值

正の値を入力すると各バーが細くなり、負の値を入力すると太くなります。

テストを行った結果、正常にバーコードが認識されない場合に使用します。出力機器（プリンタなど）や印刷媒体に応じて数値を入力してください。

拡大率

100%を指定すると、JIS 規格で規定されているサイズになります。拡大・縮小されるのは、バーコードと OCR 部分で、トンボ、情報の文字のサイズは標準サイズのままになります。

高さ

ダイアログには、短いバーの長さが表示されます。実際に印刷するときの高さを入力してください。拡大率を変更すると、自動的にこの値も変化します。

ベアラー

プラスの数値を入れると角のあるベアラーに、マイナスの数値を入れると角丸のベアラーになります。ベアラーは拡大率の影響を受けません。また、ベアラーをチェックすると [トンボ] のチェックは自動的にはずれます。

トンボ

バーコードの周囲にトンボ（バーコードの領域を示す印刷用のマーク）を追加するかどうか設定します。

OCR

バーコードの下部に OCR 文字を追加するかどうか設定します。

情報

情報を追加するかどうか設定します。[情報] をチェックすると、バーコードの下部に拡大率と補正值が追加されます。

NW7

1. 変換したい数字を入力し、選択ツールで選択します。

a12345a

2. [オブジェクト] メニューの [フィルタ] の [Barcode Filter] から [NW7] を選びます。詳しくは P9. ページをお読みください。必要な場合は、次ページの説明を参考に設定値を変更します。

NW7

バーコード位置	X軸相対	0	<input type="checkbox"/> ベアラー	幅(mm)	0
	Y軸相対	0	<input checked="" type="checkbox"/> トンボ		
補正值($\mu(1/1000\text{mm})$)		0	<input checked="" type="checkbox"/> OCR		
拡大率(%)		100	<input checked="" type="checkbox"/> 情報		
高さ(mm) (0=自動設定)		0			
細エレメント幅(mm)		0.25		×拡大率	
太エレメント幅(mm)		0.625		×拡大率	
細/太エレメント比率		2.5			

初期値 Cancel OK

3. [OK] をクリックします。入力した文字列がバーコードに変換されます。



N250 μ B625 μ BWR0 $\mu(1/1000\text{mm})$

- 設定を変更した後も、[初期値] をクリックすることによって、JIS 規格に準拠した値に戻すことができます。
[Cancel] をクリックすると、バーコードに変換せずにダイアログを消去することができます。

ダイアログについて

バーコード位置	X軸相対	0	<input type="checkbox"/> ベアラー	幅(mm)	0
	Y軸相対	0	<input checked="" type="checkbox"/> トンボ		
補正值(μ(1/1000mm))		0	<input checked="" type="checkbox"/> OCR		
拡大率(%)		100	<input checked="" type="checkbox"/> 情報		
高さ(mm)(0=自動設定)		0			
細エレメント幅(mm)		0.25		×拡大率	
太エレメント幅(mm)		0.625		×拡大率	
細/太エレメント比率		2.5			

バーコード位置 [X 軸相対] は左右の、[Y 軸相対] は上下の位置を設定します。

補正值

正の値を入力すると各バーが細くなり、負の値を入力すると太くなります。テストを行った結果、正常にバーコードが認識されない場合に使用します。出力機器（プリンタなど）や印刷媒体に応じて数値を入力してください。

拡大率

拡大率を入力します。拡大・縮小されるのは、バーコードと OCR 部分で、トンボ、情報の文字のサイズは標準サイズのままになります。

高さ

バーコードの高さを入力します。0 を入力すると自動設定になり、拡大率の影響を受けます。自動設定の数値は、バーコードの幅（余白を含む）の 15% になります。ただし、6.350mm よりも小さくなる場合は、自動的に 6.350mm に設定されます。

細 / 太エレメント幅

100% の時の数値を入力します。拡大率が 150% なら、入力した数値の 1.5 倍の幅になります。

細 / 太エレメント比率（倍） エレメントの比率が表示されます。

ベアラー

プラスの数値を入れると角のあるベアラーに、マイナスの数値を入れると角丸のベアラーになります。ベアラーは拡大率の影響を受けません。また、ベアラーをチェックすると [トンボ] のチェックは自動的にはずれます。

トンボ バーコードの周囲にトンボ（バーコードの領域を示す印刷用のマーク）を追加するかどうか設定します。

OCR バーコードの下部に OCR 文字を追加するかどうか設定します。

情報

情報を追加するかどうか設定します。[情報] をチェックすると、バーコードの下部に細エレメント幅、太エレメント幅、補正值が追加されます。

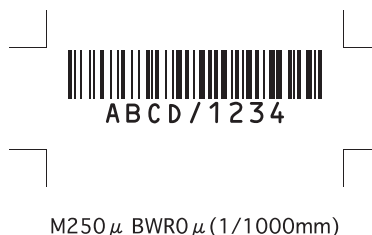
CODE128

1. 変換したい数字を入力し、選択ツールで選択します。

ABCD/1234

2. [オブジェクト] メニューの [フィルタ] の [Barcode Filter] から [CODE128] を選びます。詳しくは P9. ページをお読みください。必要な場合は、次ページの説明を参考に設定値を変更します。

3. [OK] をクリックします。入力した文字列がバーコードに変換されます。



M250μ BWR0μ (1/1000mm)

設定を変更した後も、[初期値] をクリックすることによって、JIS 規格に準拠した値に戻すことができます。
[Cancel] をクリックすると、バーコードに変換せずにダイアログを消去することができます。

ダイアログについて

CODE128

バーコード位置	X軸相対	<input type="text" value="0"/>	<input type="checkbox"/> ベアラー 幅(mm)	<input type="text" value="0"/>
	Y軸相対	<input type="text" value="0"/>	<input checked="" type="checkbox"/> トンボ	
補正值(μ(1/1000mm))		<input type="text" value="0"/>	<input checked="" type="checkbox"/> OCR	
拡大率(%)		<input type="text" value="100"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 情報	
高さ(mm)(0=自動設定)		<input type="text" value="0"/>	<input type="checkbox"/> コード入力	
モジュール幅(mm)		<input type="text" value="0.25"/>	×拡大率	

バーコード位置 [X 軸相対] は左右の、[Y 軸相対] は上下の位置を設定します。

補正值

正の値を入力すると各バーが細くなり、負の値を入力すると太くなります。テストを行った結果、正常にバーコードが認識されない場合に使用します。出力機器（プリンタなど）や印刷媒体に応じて数値を入力してください。

拡大率

拡大率を入力します。拡大・縮小されるのは、バーコードと OCR 部分で、トンボ、情報の文字のサイズは標準サイズのままになります。

高さ

バーコードの高さを入力します。0 を入力すると自動設定になり、拡大率の影響を受けます。自動設定の数値は、バーコードの幅（余白を含む）の 15% になります。ただし、6.350mm よりも小さくなる場合は、自動的に 6.350mm に設定されます。

モジュール幅

バーコード部分の幅をミリメートル単位で指定します。100% を基準にしていますので、100% 時の数値を入力してください。拡大率が 150% であれば、入力した数値の 1.5 倍の幅になります。

ベアラー

プラスの数値を入れると角のあるベアラーに、マイナスの数値を入れると角丸のベアラーになります。ベアラーは拡大率の影響を受けません。また、ベアラーをチェックすると [トンボ] のチェックは自動的にはずれます。

トンボ バーコードの周囲にトンボ（バーコードの領域を示す印刷用のマーク）を追加するかどうか設定します。

OCR バーコードの下部に OCR 文字を追加するかどうか設定します。コード入力の場合、OCR 文字は付加されません。

情報

情報を追加するかどうか設定します。[情報] をチェックすると、バーコードの下部にモジュール幅と補正值が追加されます。

コード入力

1 キャラクタ（文字）を 3 桁の数字で入力する方法を選ぶ場合にチェックします。どのコードがどの文字を表すのかについては、次ページのコード表を参照してください。

CODE128 の入力コード

コード入力には、次のコードを使用します。コード入力を行う場合には、次の点に注意してください。

最初の 3 桁にはスタートコードを入力します。CODE128 には、CODE A ～ C の 3 種類のコードがあり、どのコードを使用するのは、スタートコードによって決まります。CODE A を使用する場合は [103]、CODE B を使用する場合は [104]、CODE C を使用する場合は [105] をそれぞれ入力してください。たとえば、CODE B を使って「ABCDE」をバーコードにする場合は、「104033034035036037」と入力します。

数値	CODE A	CODE B	CODE C	数値	CODE A	CODE B	CODE C	数値	CODE A	CODE B	CODE C
000	SP	SP	00	036	D	D	36	072	BS	h	72
001	!	!	01	037	E	E	37	073	HT	i	73
002	"	"	02	038	F	F	38	074	LF	j	74
003	#	#	03	039	G	G	39	075	VT	k	75
004	\$	\$	04	040	H	H	40	076	FF	l	76
005	%	%	05	041	I	I	41	077	CR	m	77
006	&	&	06	042	J	J	42	078	SO	n	78
007	'	'	07	043	K	K	43	079	SI	o	79
008	((08	044	L	L	44	080	DLE	p	80
009))	09	045	M	M	45	081	DC1	q	81
010	*	*	10	046	N	N	46	082	DC2	r	82
011	+	+	11	047	O	O	47	083	DC3	s	83
012	,	,	12	048	P	P	48	084	DC4	t	84
013	-	-	13	049	Q	Q	49	085	NAK	u	85
014	.	.	14	050	R	R	50	086	SYN	v	86
015	/	/	15	051	S	S	51	087	ETB	w	87
016	0	0	16	052	T	T	52	088	CAN	x	88
017	1	1	17	053	U	U	53	089	EM	y	89
018	2	2	18	054	V	V	54	090	SUB	z	90
019	3	3	19	055	W	W	55	091	ESC	{	91
020	4	4	20	056	X	X	56	092	FS		92
021	5	5	21	057	Y	Y	57	093	GS	}	93
022	6	6	22	058	Z	Z	58	094	RS	~	94
023	7	7	23	059	[[59	095	US	DEL	95
024	8	8	24	060	¥	¥	60	096	FNC 3	FNC 3	96
025	9	9	25	061]]	61	097	FNC 2	FNC 2	97
026	:	:	26	062	^	^	62	098	SHIFT	SHIFT	98
027	;	;	27	063	_	_	63	099	CODE C	CODE C	99
028	<	<	28	064	NUL	`	64	100	CODE B	FNC 4	CODE B
029	=	=	29	065	SOH	a	65	101	FNC 4	CODE A	CODE A
030	>	>	30	066	STX	b	66	102	FNC 1	FNC 1	FNC 1
031	?	?	31	067	ETX	c	67	103	START (CODE A)		
032	@	@	32	068	EOT	d	68	104	START (CODE B)		
033	A	A	33	069	ENQ	e	69	105	START (CODE C)		
034	B	B	34	070	ACK	f	70				
035	C	C	35	071	BEL	g	71				

CODE39

1. 変換したい数字を入力し、選択ツールで選択します。

ABCD/1234

2. [オブジェクト] メニューの [フィルタ] の [Barcode Filter] から [CODE39] を選びます。詳しくは P9. ページをお読みください。必要な場合は、次ページの説明を参考に設定値を変更します。

CODE39			
バーコード位置	X軸相対	0	<input type="checkbox"/> ベアラー 幅(mm)
	Y軸相対	0	<input checked="" type="checkbox"/> トンボ
補正值($\mu(1/1000\text{mm})$)		0	<input checked="" type="checkbox"/> OCR
拡大率(%)		100	<input checked="" type="checkbox"/> 情報
高さ(mm)(0=自動設定)		0	<input type="checkbox"/> チェックデジット付
細エレメント幅(mm)		0.25	×拡大率
太エレメント幅(mm)		0.625	×拡大率
細/太エレメント比率		2.5	
			<input type="button" value="初期値"/> <input type="button" value="Cancel"/> <input type="button" value="OK"/>

3. [OK] をクリックします。入力した文字列がバーコードに変換されます。



設定を変更した後も、[初期値] をクリックすることによって、JIS 規格に準拠した値に戻すことができます。
[Cancel] をクリックすると、バーコードに変換せずにダイアログを消去することができます。

ダイアログについて

CODE39			
バーコード位置	X軸相対	0	<input type="checkbox"/> ベアラー 幅(mm) 0
	Y軸相対	0	<input checked="" type="checkbox"/> トンボ
補正值($\mu(1/1000\text{mm})$)		0	<input checked="" type="checkbox"/> OCR
拡大率(%)		100	<input checked="" type="checkbox"/> 情報
高さ(mm)(0=自動設定)		0	<input type="checkbox"/> チェックデジット付
細エレメント幅(mm)		0.25	×拡大率
太エレメント幅(mm)		0.625	×拡大率
細/太エレメント比率		2.5	
		<input type="button" value="初期値"/> <input type="button" value="Cancel"/> <input type="button" value="OK"/>	

バーコード位置 [X 軸相対] は左右の、[Y 軸相対] は上下の位置を設定します。

補正值

正の値を入力すると各バーが細くなり、負の値を入力すると太くなります。テストを行った結果、正常にバーコードが認識されない場合に使用します。出力機器（プリンタなど）や印刷媒体に応じて数値を入力してください。

拡大率

拡大率を入力します。拡大・縮小されるのは、バーコードと OCR 部分で、トンボ、情報の文字のサイズは標準サイズのままになります。

高さ

バーコードの高さを入力します。0 を入力すると自動設定になり、拡大率の影響を受けます。自動設定の数値は、バーコードの幅（余白を含む）の 15% になります。ただし、6.350mm よりも小さくなる場合は、自動的に 6.350mm に設定されます。

細 / 太エレメント幅

100% の時の数値を入力します。拡大率が 150% なら、入力した数値の 1.5 倍の幅になります。

細 / 太エレメント比率 (倍) エレメントの比率が表示されます。

ベアラー

プラスの数値を入れると角のあるベアラーに、マイナスの数値を入れると角丸のベアラーになります。ベアラーは拡大率の影響を受けません。また、ベアラーをチェックすると [トンボ] のチェックは自動的にはずれます。

トンボ バーコードの周囲にトンボ（バーコードの領域を示す印刷用のマーク）を追加するかどうか設定します。

OCR バーコードの下部に OCR 文字を追加するかどうか設定します。

情報 情報を追加するかどうか設定します。[情報] をチェックすると、バーコードの下部に細エレメント幅、太エレメント幅、補正值が追加されます。

チェックデジット付 チェックデジットを付加するかどうかを設定します。

CODE93

1. 変換したい数字を入力し、選択ツールで選択します。

12345

2. [オブジェクト] メニューの [フィルタ] の [Barcode Filter] から [CODE93] を選びます。詳しくは P9. ページをお読みください。必要な場合は、次ページの説明を参考に設定値を変更します。

3. [OK] をクリックします。入力した文字列がバーコードに変換されます。



M250 μ BWR0 μ (1/1000mm)

設定を変更した後も、[初期値] をクリックすることによって、JIS 規格に準拠した値に戻すことができます。
[Cancel] をクリックすると、バーコードに変換せずにダイアログを消去することができます。

ダイアログについて

CODE93

バーコード位置	X軸相対	<input type="text" value="0"/>	<input type="checkbox"/> ベアラー 幅(mm)	<input type="text" value="0"/>
	Y軸相対	<input type="text" value="0"/>	<input checked="" type="checkbox"/> トンボ	
補正值(μ(1/1000mm))		<input type="text" value="0"/>	<input checked="" type="checkbox"/> OCR	
拡大率(%)		<input type="text" value="100"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 情報	
高さ(mm)(0=自動設定)		<input type="text" value="0"/>	<input type="checkbox"/> コード入力	
モジュール幅(mm)		<input type="text" value="0.25"/>	×拡大率	

バーコード位置 [X 軸相対] は左右の、[Y 軸相対] は上下の位置を設定します。

補正值

正の値を入力すると各バーが細くなり、負の値を入力すると太くなります。テストを行った結果、正常にバーコードが認識されない場合に使用します。出力機器（プリンタなど）や印刷媒体に応じて数値を入力してください。

拡大率

拡大率を入力します。拡大・縮小されるのは、バーコードと OCR 部分で、トンボ、情報の文字のサイズは標準サイズのままになります。

高さ

バーコードの高さを入力します。0 を入力すると自動設定になり、拡大率の影響を受けます。自動設定の数値は、バーコードの幅(余白を含む)の 15%になります。ただし、6.350mm よりも小さくなる場合は、自動的に 6.350mm に設定されます。

モジュール幅

バーコードの 1 モジュールの幅をミリメートル単位で指定します。100%を基準にしていますので、100%時の数値を入力してください。拡大率が 150%であれば、入力した数値の 1.5 倍の幅になります。

ベアラー

プラスの数値を入れると角のあるベアラーに、マイナスの数値を入れると角丸のベアラーになります。ベアラーは拡大率の影響を受けません。また、ベアラーをチェックすると [トンボ] のチェックは自動的にはずれます。

トンボ バーコードの周囲にトンボ（バーコードの領域を示す印刷用のマーク）を追加するかどうか設定します。

OCR バーコードの下部に OCR 文字を追加するかどうか設定します。コード入力の場合、OCR 文字は付加されません。

情報

情報を追加するかどうか設定します。[情報] をチェックすると、バーコードの下部にモジュール幅、補正值が追加されます。

コード入力

1 キャラクタ（文字）を 2 または 4 桁の数字で入力する方法を選ぶ場合にチェックします。どのコードがどの文字を表すのかについては、次ページのコード表を参照してください。

CODE93 の入力コード

コード入力には、表のコードを使用します。

「ABCDE」をバーコードにする場合は、「1011121314」と入力します。

「abcd」をバーコードにする場合は上表のキャラクタ構成を組み合わせせて「4610461146124613」と入力します。

数値	キャラクタ	数値	キャラクタ	数値	キャラクタ	数値	キャラクタ	数値	キャラクタ
00	0	10	A	20	K	30	U	40	/
01	1	11	B	21	L	31	V	41	+
02	2	12	C	22	M	32	W	42	%
03	3	13	D	23	N	33	X	43	\$
04	4	14	E	24	O	34	Y	44	Ⓢ
05	5	15	F	25	P	35	Z	45	Ⓣ
06	6	16	G	26	Q	36	-	46	Ⓟ
07	7	17	H	27	R	37	.		
08	8	18	I	28	S	38	スペース		
09	9	19	J	29	T	39	\$		

CODE-93のアスキーコード組み合わせ表

ASCII	CODE93	ASCII	CODE93	ASCII	CODE93	ASCII	CODE93	ASCII	CODE93
NUL	Ⓢ U	SUB	Ⓢ Z	4	4	N	N	h	Ⓟ H
SOH	Ⓢ A	ESC	Ⓢ A	5	5	O	O	i	Ⓟ I
STX	Ⓢ B	FS	Ⓢ B	6	6	P	P	j	Ⓟ J
ETX	Ⓢ C	GS	Ⓢ C	7	7	Q	Q	k	Ⓟ K
EOT	Ⓢ D	RS	Ⓢ D	8	8	R	R	l	Ⓟ L
ENQ	Ⓢ E	US	Ⓢ E	9	9	S	S	m	Ⓟ M
ACK	Ⓢ F	SP	SPACE	:	Ⓣ Z	T	T	n	Ⓟ N
BEL	Ⓢ G	!	Ⓣ A	:	Ⓢ F	U	U	o	Ⓟ O
BS	Ⓢ H	"	Ⓣ B	<	Ⓢ G	V	V	p	Ⓟ P
HT	Ⓢ I	#	Ⓣ C	=	Ⓢ H	W	W	q	Ⓟ Q
LF	Ⓢ J	\$	\$	>	Ⓢ I	X	X	r	Ⓟ R
VT	Ⓢ K	%	%	?	Ⓢ J	Y	Y	s	Ⓟ S
FF	Ⓢ L	&	Ⓣ F	@	Ⓢ V	Z	Z	t	Ⓟ T
CR	Ⓢ M	'	Ⓣ G	A	A	[Ⓢ K	u	Ⓟ U
SO	Ⓢ N	(Ⓣ H	B	B	¥	Ⓢ L	v	Ⓟ V
SI	Ⓢ O)	Ⓣ I	C	C]	Ⓢ M	w	Ⓟ W
DEL	Ⓢ P	*	Ⓣ J	D	D	^	Ⓢ N	x	Ⓟ X
DC1	Ⓢ Q	+	+	E	E	_	Ⓢ O	y	Ⓟ Y
DC2	Ⓢ R	,	Ⓣ L	F	F	`	Ⓢ W	z	Ⓟ Z
DC3	Ⓢ S	-	-	G	G	a	Ⓟ A	{	Ⓢ P
DC4	Ⓢ T	.	.	H	H	b	Ⓟ B		Ⓢ Q
NAK	Ⓢ U	/	/	I	I	c	Ⓟ C	}	Ⓢ R
SYN	Ⓢ V	0	0	J	J	d	Ⓟ D	~	Ⓢ S
ETB	Ⓢ W	1	1	K	K	e	Ⓟ E	DEL	Ⓢ T
CAN	Ⓢ X	2	2	L	L	f	Ⓟ F		
EM	Ⓢ Y	3	3	M	M	g	Ⓟ G		

UPC-A

1. 変換したい数字を入力し、選択ツールで選択します。

12345123456

2. [オブジェクト] メニューの [フィルタ] の [Barcode Filter] から [UPC-A] を選びます。詳しくは P9. ページをお読みください。必要な場合は、次ページの説明を参考に設定値を変更します。

The dialog box is titled "UPC-A". It contains the following settings:

バーコード位置	X軸相対	0	<input type="checkbox"/> ベアラー	幅(mm)	0
	Y軸相対	0	<input checked="" type="checkbox"/> トンボ		
補正值($\mu(1/1000\text{mm})$)		0	<input checked="" type="checkbox"/> OCR		
拡大率(%)		100	<input checked="" type="checkbox"/> 情報		
高さ(mm)		22.86	<input type="button" value="初期値"/> <input type="button" value="Cancel"/> <input type="button" value="OK"/>		

3. [OK] をクリックします。入力した文字列がバーコードに変換されます。



設定を変更した後も、[初期値] をクリックすることによって、JIS 規格に準拠した値に戻すことができます。
[Cancel] をクリックすると、バーコードに変換せずにダイアログを消去することができます。

ダイアログについて

バーコード位置

[X 軸相対] は左右の、[Y 軸相対] は上下の位置を設定します。

補正值

正の値を入力すると各バーが細くなり、負の値を入力すると太くなります。テストを行った結果、正常にバーコードが認識されない場合に使用します。出力機器（プリンタなど）や印刷媒体に応じて数値を入力してください。

拡大率

拡大率を入力します。拡大・縮小されるのは、バーコードと OCR 部分で、トンボ、情報の文字のサイズは標準サイズのままになります。

高さ

ダイアログには、短いバーの長さが表示されます。実際に印刷するときの高さを入力してください。拡大率を変更すると、自動的にこの値も変化します。

ベアラー

プラスの数値を入れると角のあるベアラーに、マイナスの数値を入れると角丸のベアラーになります。ベアラーは拡大率の影響を受けません。また、ベアラーをチェックすると [トンボ] のチェックは自動的にはずれます。

トンボ

バーコードの周囲にトンボ（バーコードの領域を示す印刷用のマーク）を追加するかどうか設定します。

OCR

バーコードの下部に OCR 文字を追加するかどうか設定します。

情報

情報を追加するかどうか設定します。[情報] をチェックすると、バーコードの下部に拡大率と補正值が追加されます。

UPC-E

1. 変換したい数字を入力し、選択ツールで選択します。

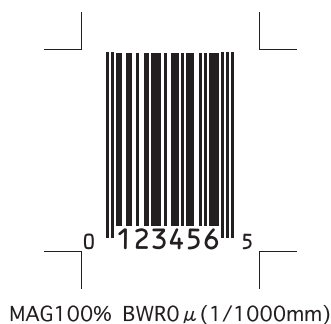
01234500006

2. [オブジェクト] メニューの [フィルタ] の [Barcode Filter] から [UPC-E] を選びます。詳しくは P9. ページをお読みください。必要な場合は、次ページの説明を参考に設定値を変更します。

The dialog box titled "UPC-E" contains the following settings:

バーコード位置	X軸相対	0	<input type="checkbox"/> ベアラー 幅(mm)	0
	Y軸相対	0	<input checked="" type="checkbox"/> トンボ	
補正値($\mu(1/1000\text{mm})$)		0	<input checked="" type="checkbox"/> OCR	
拡大率(%)		100	<input checked="" type="checkbox"/> 情報	
高さ(mm)		22.86	<input type="button" value="初期値"/> <input type="button" value="Cancel"/> <input type="button" value="OK"/>	

3. [OK] をクリックします。入力した文字列がバーコードに変換されます。



UPC-E は、UPC-A のコードをゼロサプレス（先頭または末尾のゼロを削除すること）で短縮したものになります。このため入力する値は、UPC-A の場合と同様です。詳しくは、P33. ページの説明を参照してください。

設定を変更した後でも、[初期値] をクリックすることによって、標準的な値に戻すことができます。

[Cancel] をクリックすると、バーコードに変換せずにダイアログを消去することができます。

ダイアログについて

The image shows a dialog box titled "UPC-E". It contains several input fields and checkboxes. On the left, there are labels for "バーコード位置" (Barcode Position), "X軸相対" (X-axis relative), "Y軸相対" (Y-axis relative), "補正值(μ(1/1000mm))" (Correction value), "拡大率(%)" (Magnification rate), and "高さ(mm)" (Height). The corresponding input fields contain the values 0, 0, 0, 100, and 22.86. On the right, there is a checkbox for "ベアラー 幅(mm)" (Beamer width) which is unchecked, and three checked checkboxes for "トンボ" (Tonbo), "OCR", and "情報" (Information). At the bottom right, there are three buttons: "初期値" (Initial value), "Cancel", and "OK".

バーコード位置

[X 軸相対] は左右の、[Y 軸相対] は上下の位置を設定します。

補正值

正の値を入力すると各バーが細くなり、負の値を入力すると太くなります。テストを行った結果、正常にバーコードが認識されない場合に使用します。出力機器（プリンタなど）や印刷媒体に応じて数値を入力してください。

拡大率

拡大率を入力します。拡大・縮小されるのは、バーコードと OCR 部分で、トンボ、情報の文字のサイズは標準サイズのままになります。

高さ

ダイアログには、短いバーの長さが表示されます。実際に印刷するときの高さを入力してください。拡大率を変更すると、自動的にこの値も変化します。

ベアラー

プラスの数値を入れると角のあるベアラーに、マイナスの数値を入れると角丸のベアラーになります。ベアラーは拡大率の影響を受けません。また、ベアラーをチェックすると [トンボ] のチェックは自動的にはずれます。

トンボ

バーコードの周囲にトンボ（バーコードの領域を示す印刷用のマーク）を追加するかどうか設定します。

OCR

バーコードの下部に OCR 文字を追加するかどうか設定します。

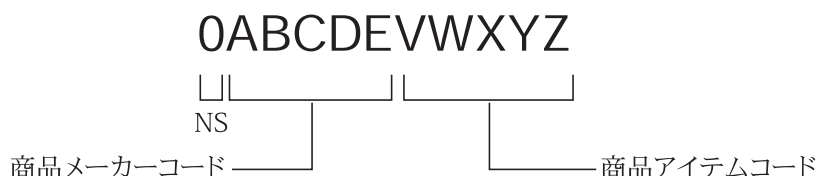
情報

情報を追加するかどうか設定します。[情報] をチェックすると、バーコードの下部に拡大率と補正值が追加されます。

入力する文字と作成されるコードの関係

UPC-E は、UPC-A のコードを基準に「商品メーカーコード」と「商品アイテムコード」をゼロサプレスして作成します。「商品メーカーコード」の部分は、末尾のゼロを自動削除するトレーリングゼロサプレス、「商品アイテムコード」の部分は、先頭のゼロを削除するリーディングゼロサプレスで処理されます。

入力する文字は、UPC-A の場合と同じになるため、次のような形式で入力します。



ここで、どこにゼロがあるかによって、次の 4 パターンのバーコードが作成されることになります。チェックデジットは自動的に作成されますので、任意の数字を入力することはできません。

1. V～Y すべてが 0 のとき

ABCDEZ になります。

但し Z は 5～9 のみです。

(例) 入力数値	作成された UPC-E コード
01234500006	0 123456 C/D (チェックデジット)

2. E と VWXY がすべて 0 のとき

ABCDZ4 になります。

最後の 4 は、メーカーコードの A と D が 0 でないことを表します。

(例) 入力数値	作成された UPC-E コード
01234000003	0 123434 C/D

3. DE と VWX が 0 のとき

ABCYZ3 になります。

最後の 3 は、メーカーコードの A と C が 0 でなく、ABC が 3 桁の数であることを表します。

(例) 入力数値	作成された UPC-E コード
01230000066	0 123663 C/D

4. DE と VW が 0 で、C が 0 か 1 か 2 のとき

ABXYZC になります。

(例) 入力数値	作成された UPC-E コード
01200000666	0 126660 C/D
01210000666	0 126661 C/D
01220000666	0 126662 C/D

ITF

1. 変換したい数字を入力し、選択ツールで選択します。

049123456789

2. [オブジェクト] メニューの [フィルタ] の [Barcode Filter] から [ITF] を選びます。詳しくは P9. ページをお読みください。必要な場合は、次ページの説明を参考に設定値を変更します。

The dialog box titled "ITF" contains the following settings:

バーコード位置	X軸相対	0	<input type="checkbox"/> ベアラー 幅(mm)	0
	Y軸相対	0	<input checked="" type="checkbox"/> トンボ	
補正值(μ(1/1000mm))		0	<input checked="" type="checkbox"/> OCR	
拡大率(%)		100	<input checked="" type="checkbox"/> 情報	
高さ(mm)(0=自動設定)		0	<input type="checkbox"/> チェックデジット付	
細エレメント幅(mm)		0.25	×拡大率	
太エレメント幅(mm)		0.625	×拡大率	
細/太エレメント比率		2.5		

Buttons: 初期値, Cancel, OK

3. [OK] をクリックします。入力した文字列がバーコードに変換されます。



設定を変更した後も、[初期値] をクリックすることによって、標準的な値に戻すことができます。

[Cancel] をクリックすると、バーコードに変換せずにダイアログを消去することができます。

チェックデジット付きのバーコードを作成したい場合は、文字列の数を奇数にします。文字列の数が偶数の時は、最後の数値を自動的に切り捨てます。

チェックデジットを付加しない場合は、文字列の数を偶数にします。文字列の数が奇数の時は、最後の数値を自動的に切り捨てます。

このフィルタによって作成されるのは、Interleaved 2 of 5 のバーコードです。5.0J/7.0J 対応版で「ITF」として扱われているバーコードとは、別のバーコードが作成されるのでご注意ください。5.0J/7.0J 対応版で「ITF」として扱われているバーコードを作成する場合には「物流商品コード」フィルタを選択してください。

ダイアログについて

ITF		
バーコード位置	X軸相対 0	<input type="checkbox"/> ベアラー 幅(mm) 0
	Y軸相対 0	<input checked="" type="checkbox"/> トンボ
補正值(μ(1/1000mm))	0	<input checked="" type="checkbox"/> OCR
拡大率(%)	100	<input checked="" type="checkbox"/> 情報
高さ(mm)(0=自動設定)	0	<input type="checkbox"/> チェックデジット付
細エレメント幅(mm)	0.25	×拡大率
太エレメント幅(mm)	0.625	×拡大率
細/太エレメント比率	2.5	<input type="button" value="初期値"/> <input type="button" value="Cancel"/> <input type="button" value="OK"/>

バーコード位置 [X 軸相対] は左右の、[Y 軸相対] は上下の位置を設定します。

補正值

正の値を入力すると各バーが細くなり、負の値を入力すると太くなります。テストを行った結果、正常にバーコードが認識されない場合に使用します。出力機器（プリンタなど）や印刷媒体に応じて数値を入力してください。

拡大率

拡大率を入力します。拡大・縮小されるのは、バーコードと OCR 部分で、トンボ、情報の文字のサイズは標準サイズのままになります。

高さ

バーコードの高さを入力します。0 を入力すると自動設定になり、拡大率の影響を受けます。自動設定の数値は、バーコードの幅（余白を含む）の 15% になります。ただし、6.350mm よりも小さくなる場合は、自動的に 6.350mm に設定されます。

細 / 太エレメント幅

100% の時の数値を入力します。拡大率が 150% なら、入力した数値の 1.5 倍の幅になります。

細 / 太エレメント比率 (倍) エレメントの比率が表示されます。

ベアラー

プラスの数値を入れると角のあるベアラーに、マイナスの数値を入れると角丸のベアラーになります。ベアラーは拡大率の影響を受けません。また、ベアラーをチェックすると [トンボ] のチェックは自動的にはずれます。

トンボ バーコードの周囲にトンボ（バーコードの領域を示す印刷用のマーク）を追加するかどうか設定します。

OCR バーコードの下部に OCR 文字を追加するかどうか設定します。

情報 情報を追加するかどうか設定します。[情報] をチェックすると、バーコードの下部に細エレメント幅、太エレメント幅、補正值が追加されます。

チェックデジット付 チェックデジットを付加するかどうかを設定します。

物流商品コード

1. 変換したい数字を入力し、選択ツールで選択します。

0491234567890

2. [オブジェクト] メニューの [フィルタ] の [Barcode Filter] から [物流商品コード] を選びます。詳しくは P9. ページをお読みください。必要な場合は、次ページの説明を参考に設定値を変更します。

3. [OK] をクリックします。入力した文字列がバーコードに変換されます。



設定を変更した後でも、[初期値] をクリックすることによって、標準的な値に戻すことができます。
[Cancel] をクリックすると、バーコードに変換せずにダイアログを消去することができます。

このフィルタは、5.5J/7.0J 対応版では「ITF」と呼ばれているものと同じバーコードを作成します。

ダイアログについて

物流商品コード

バーコード位置 X軸相対 0 ベアラー 幅(mm) 4.8

Y軸相対 0 ☒ OCR

補正值(μ(1/1000mm)) 0 ☒ 情報

拡大率(%) 100

高さ(mm) 31.8

バーコード位置

[X 軸相対] は左右の、[Y 軸相対] は上下の位置を設定します。

補正值

正の値を入力すると各バーが細くなり、負の値を入力すると太くなります。テストを行った結果、正常にバーコードが認識されない場合に使用します。出力機器（プリンタなど）や印刷媒体に応じて数値を入力してください。

拡大率

拡大率を入力します。拡大・縮小されるのは、バーコード、OCR、ベアラー部分で、トンボ、情報の文字のサイズは標準サイズのままになります。

高さ

実際に印刷するときの高さを入力してください。拡大率を変更すると、自動的にこの値も変化します。

ベアラー

プラスの数値を入れると角のあるベアラーに、マイナスの数値を入れると角丸のベアラーになります。

OCR

バーコードの下部に OCR 文字を追加するかどうか設定します。

情報

情報を追加するかどうか設定します。[情報] をチェックすると、バーコードの下部に拡大率と補正值が追加されます。

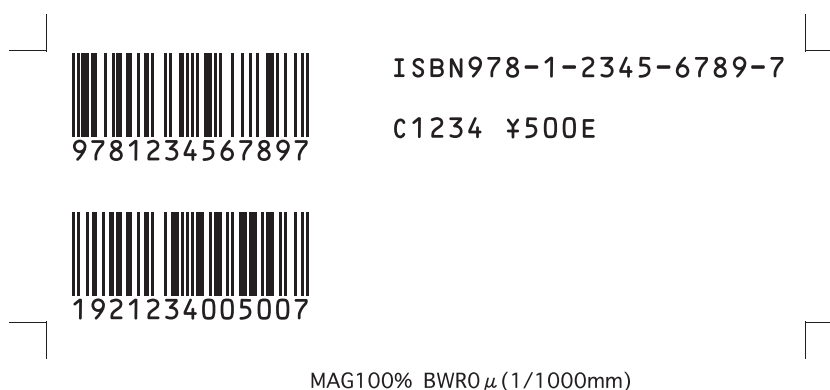
ISBN（図書コード）

1. 変換したい数字を入力し、選択ツールで選択します。

97812345-6789-192-1234-500

2. [オブジェクト] メニューの [フィルタ] の [Barcode Filter] から [ISBN] を選びます。詳しくは P9. ページをお読みください。必要な場合は、次ページの説明を参考に設定値を変更します。

3. [OK] をクリックします。入力した文字列がバーコードに変換されます。



設定を変更した後も、[初期値] をクリックすることによって、標準的な値に戻すことができます。
[Cancel] をクリックすると、バーコードに変換せずにダイアログを消去することができます。

ISBN コードは、次の要素で構成されています。



ダイアログについて

バーコード位置

〔X 軸相対〕は左右の、〔Y 軸相対〕は上下の位置を設定します。

補正值

正の値を入力すると各バーが細くなり、負の値を入力すると太くなります。テストを行った結果、正常にバーコードが認識されない場合に使用します。出力機器（プリンタなど）や印刷媒体に応じて数値を入力してください。

拡大率

拡大率を入力します。拡大・縮小されるのは、バーコードと OCR 部分で、トンボ、情報の文字のサイズは標準サイズのままになります。

高さ

実際に印刷するときの高さを入力してください。拡大率を変更すると、自動的にこの値も変化します。

ベアラー

プラスの数値を入れると角のあるベアラーに、マイナスの数値を入れると角丸のベアラーになります。ベアラーは拡大率の影響を受けません。また、ベアラーをチェックすると〔トンボ〕のチェックは自動的にはずれます。

トンボ

バーコードの周囲にトンボ（バーコードの領域を示す印刷用のマーク）を追加するかどうか設定します。

OCR

バーコードの下部に OCR 文字を追加するかどうか設定します。

情報

情報を追加するかどうか設定します。〔情報〕をチェックすると、バーコードの下部に拡大率と補正值が追加されます。

バーコード位置

バーコードを右端に表示するか、左端に表示するかを設定します。

ZIP

1. 変換したい数字を入力し、選択ツールで選択します。

53000431-19-6-3

2. [オブジェクト] メニューの [フィルタ] の [Barcode Filter] から [ZIP] を選びます。詳しくは P9. ページをお読みください。必要な場合は、次ページの説明を参考に設定値を変更します。

The ZIP dialog box contains the following settings:

バーコード位置	X軸相対	0	<input type="checkbox"/> ベアラー 幅(mm)	0
	Y軸相対	0	<input checked="" type="checkbox"/> トンボ	
補正值($\mu(1/1000\text{mm})$)		0	<input checked="" type="checkbox"/> 情報	
ポイント(pt)		10	<input type="button" value="初期値"/> <input type="button" value="Cancel"/> <input type="button" value="OK"/>	

3. [OK] をクリックします。入力した文字列がバーコードに変換されます。



10pt BWR0 $\mu(1/1000\text{mm})$

設定を変更した後でも、[初期値] をクリックすることによって、標準的な値に戻すことができます。

[Cancel] をクリックすると、バーコードに変換せずにダイアログを消去することができます。

ZIP に必要な文字情報の書き出し方法は郵便局で配布している「新郵便番号制マニュアル」をお読みください。郵政省の規定に基づいて、郵便番号と住所表示番号をあわせて 20 桁まで（ハイフンを含む）が変換されます。20 桁以上の値を選択しても 21 桁目以降は、自動的に削除されます。

ダイアログについて

The ZIP dialog box contains the following settings:

項目	設定値	オプション
バーコード位置 X軸相対	0	<input type="checkbox"/> ベアラー 幅(mm) 0
Y軸相対	0	<input checked="" type="checkbox"/> トンボ
補正值(μ(1/1000mm))	0	<input checked="" type="checkbox"/> 情報
ポイント(pt)	10	初期値 Cancel OK

バーコード位置

[X 軸相対] は左右の、[Y 軸相対] は上下の位置を設定します。

補正值

正の値を入力すると各バーが細くなり、負の値を入力すると太くなります。テストを行った結果、正常にバーコードが認識されない場合に使用します。出力機器（プリンタなど）や印刷媒体に応じて数値を入力してください。

ポイント

バーの基準寸法を決める基準値を指定します（推奨は 8pt から 11.5pt）。基準寸法式については郵便局で配布している「新郵便番号制マニュアル」をお読みください。

ベアラー

プラスの数値を入れると角のあるベアラーに、マイナスの数値を入れると角丸のベアラーになります。また、ベアラーをチェックすると [トンボ] のチェックは自動的にはずれます。

トンボ

バーコードの周囲にトンボ（バーコードの領域を示す印刷用のマーク）を追加するかどうか設定します。

情報

情報を追加するかどうか設定します。[情報] をチェックすると、バーコードの下部にポイント数と補正值が追加されます。

ご注意

バーコード自体は、郵政省内で検証済みですが、実際に ZIP バーコードが印刷される用紙の色や種類によって認識精度に差が出ます。郵送される前に実際に使用する郵便物で検証されることをお勧めします。検証は郵便局で行っています。

INDUST20F5

1. 変換したい数字を入力し、選択ツールで選択します。

.12345

2. [オブジェクト] メニューの [フィルタ] の [Barcode Filter] から [INDUST20F5] を選びます。詳しくは P9. ページをお読みください。必要な場合は、次ページの説明を参考に設定値を変更します。

INDUST20F5			
バーコード位置	X軸相対	0	<input type="checkbox"/> ベアラー 幅(mm)
	Y軸相対	0	<input checked="" type="checkbox"/> トンボ
補正值(μ (1/1000mm))		0	<input checked="" type="checkbox"/> OCR
拡大率(%)		100	<input checked="" type="checkbox"/> 情報
高さ(mm)(0=自動設定)		0	
細エレメント幅(mm)		0.25	×拡大率
太エレメント幅(mm)		0.625	×拡大率
細/太エレメント比率		2.5	
			<input type="button" value="初期値"/> <input type="button" value="Cancel"/> <input type="button" value="OK"/>

3. [OK] をクリックします。入力した文字列がバーコードに変換されます。



- 設定を変更した後でも、[初期値] をクリックすることによって、標準的な値に戻すことができます。
[Cancel] をクリックすると、バーコードに変換せずにダイアログを消去することができます。

ダイアログについて

INDUST20F5

バーコード位置	X軸相対	0	<input type="checkbox"/> ベアラー	幅(mm)	0
	Y軸相対	0	<input checked="" type="checkbox"/> トンボ		
補正值(μ (1/1000mm))		0	<input checked="" type="checkbox"/> OCR		
拡大率(%)		100	<input checked="" type="checkbox"/> 情報		
高さ(mm)(0=自動設定)		0			
細エレメント幅(mm)		0.25		×拡大率	
太エレメント幅(mm)		0.625		×拡大率	
細/太エレメント比率		2.5			

初期値 Cancel OK

バーコード位置 [X 軸相対] は左右の、[Y 軸相対] は上下の位置を設定します。

補正值

正の値を入力すると各バーが細くなり、負の値を入力すると太くなります。テストを行った結果、正常にバーコードが認識されない場合に使用します。出力機器（プリンタなど）や印刷媒体に応じて数値を入力してください。

拡大率

拡大率を入力します。拡大・縮小されるのは、バーコードと OCR 部分で、トンボ、情報の文字のサイズは標準サイズのままになります。

高さ

バーコードの高さを入力します。0 を入力すると自動設定になり、拡大率の影響を受けます。自動設定の数値は、バーコードの幅（余白を含む）の 15% になります。ただし、6.350mm よりも小さくなる場合は、自動的に 6.350mm に設定されます。

細 / 太エレメント幅

100% の時の数値を入力します。拡大率が 150% なら、入力した数値の 1.5 倍の幅になります。

細 / 太エレメント比率 (倍) エレメントの比率が表示されます。

ベアラー

プラスの数値を入れると角のあるベアラーに、マイナスの数値を入れると角丸のベアラーになります。ベアラーは拡大率の影響を受けません。また、ベアラーをチェックすると [トンボ] のチェックは自動的にはずれます。

トンボ バーコードの周囲にトンボ（バーコードの領域を示す印刷用のマーク）を追加するかどうか設定します。

OCR バーコードの下部に OCR 文字を追加するかどうか設定します。

情報

情報を追加するかどうか設定します。[情報] をチェックすると、バーコードの下部に細エレメント幅、太エレメント幅、補正值が追加されます。

COOP20F5

1. 変換したい数字を入力し、選択ツールで選択します。

.12345

2. [オブジェクト] メニューの [フィルタ] の [Barcode Filter] から [COOP20F5] を選びます。詳しくは P9. ページをお読みください。必要な場合は、次ページの説明を参考に設定値を変更します。

COOP20F5			
バーコード位置	X軸相対	0	<input type="checkbox"/> ベアラー 幅(mm)
	Y軸相対	0	<input checked="" type="checkbox"/> トンボ
補正值($\mu(1/1000\text{mm})$)		0	<input checked="" type="checkbox"/> OCR
拡大率(%)		100	<input checked="" type="checkbox"/> 情報
高さ(mm)(0=自動設定)		0	
細エレメント幅(mm)		1.016	×拡大率
太エレメント幅(mm)		2.54	×拡大率
細/太エレメント比率		2.5	
			<input type="button" value="初期値"/> <input type="button" value="Cancel"/> <input type="button" value="OK"/>

3. [OK] をクリックします。入力した文字列がバーコードに変換されます。



設定を変更した後でも、[初期値] をクリックすることによって、標準的な値に戻すことができます。

[Cancel] をクリックすると、バーコードに変換せずにダイアログを消去することができます。

※生成されたバーコードの OCR 文字は、OCR-B フォントを使用しています。規格で定められているフォントに変更してお使いください。

ダイアログについて

COOP20F5

バーコード位置	X軸相対	0	<input type="checkbox"/> ベアラー	幅(mm)	0
	Y軸相対	0	<input checked="" type="checkbox"/> トンボ		
補正值(μ (1/1000mm))		0	<input checked="" type="checkbox"/> OCR		
拡大率(%)		100	<input checked="" type="checkbox"/> 情報		
高さ(mm)(0=自動設定)		0			
細エレメント幅(mm)		1.016		×拡大率	
太エレメント幅(mm)		2.54		×拡大率	
細/太エレメント比率		2.5			

初期値 Cancel OK

バーコード位置 [X 軸相対] は左右の、[Y 軸相対] は上下の位置を設定します。

補正值

正の値を入力すると各バーが細くなり、負の値を入力すると太くなります。テストを行った結果、正常にバーコードが認識されない場合に使用します。出力機器（プリンタなど）や印刷媒体に応じて数値を入力してください。

拡大率

拡大率を入力します。拡大・縮小されるのは、バーコードと OCR 部分で、トンボ、情報の文字のサイズは標準サイズのままになります。

高さ

バーコードの高さを入力します。0 を入力すると自動設定になります。自動設定の数値は、バーコードの幅（余白を含む）の 15% か 6.350mm のどちらか大きい方になります。

細 / 太エレメント幅

100% の時の数値を入力します。拡大率が 150% なら、入力した数値の 1.5 倍の幅になります。

細 / 太エレメント比率 (倍) エレメントの比率が表示されます。

ベアラー

詳しい寸法については、次ページを参照してください。プラスの数値を入れると角のあるベアラーに、マイナスの数値を入れると角丸のベアラーになります。ベアラーは拡大率の影響を受けません。また、ベアラーをチェックすると [トンボ] のチェックは自動的にはずれます。

トンボ バーコードの周囲にトンボ（バーコードの領域を示す印刷用のマーク）を追加するかどうか設定します。

OCR バーコードの上部に OCR 文字を追加するかどうか設定します。

情報

情報を追加するかどうか設定します。[情報] をチェックすると、バーコードの下部に細エレメント幅、太エレメント幅、補正值が追加されます。

ベアラバーの寸法

COOP20F5 のベアラバー幅は倍率により規定されています。

以下の表を参照して、ベアラバーの幅をダイアログに入力してください。

バーコードの倍率 ベアラバーの寸法

60%	1.62mm
70%	1.89mm
80%	2.16mm
90%	2.43mm
100%	2.70mm
110%	2.97mm
120%	3.24mm
130%	3.51mm
140%	3.78mm
150%	4.05mm

ベアラーについて

ベアラーの設定値と、作成されるバーコードとの関係については、次の図を参照してください。



MAG100% BWR0 μ (1/1000mm)

JAN標準、ベアラーなし、拡大率 100% の場合



MAG100% BWR0 μ (1/1000mm)

JAN標準、ベアラー 5 mm
拡大率 100% の場合



MAG50% BWR0 μ (1/1000mm)

JAN標準、ベアラー 5 mm
拡大率 50% の場合



MAG100% BWR0 μ (1/1000mm)

JAN標準、ベアラー -5 mm
拡大率 100% の場合



MAG50% BWR0 μ (1/1000mm)

JAN標準、ベアラー -5 mm
拡大率 50% の場合

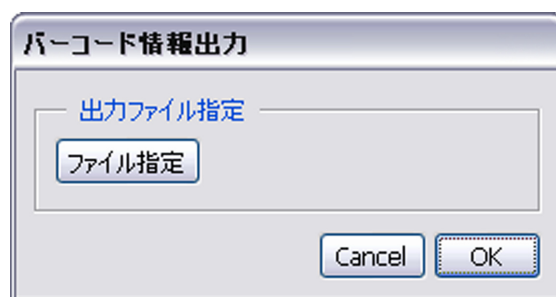
バーコード情報のテキストファイルへの出力

バーコード情報の出力機能は、バーコードの情報をテキストファイルに出力する機能で、データベースなどを使ってバーコード情報を管理するのに使用します。作成されたバーコードのコードデータだけでなく、ダイアログを使った設定情報も出力します。

出力した情報（タブ区切りのテキストファイル）は、次章で説明するバーコードの自動作成機能を使って、ふたたびバーコードに変換することができます。このとき設定情報なども再現されるので（バーコード位置（X,Y 軸）を除く）、効率的に作業を進めることができます。

バーコードの情報をテキストファイルに出力するには、次のように操作します。

- 1 バーコードが設定されている Illustrator のファイルを開きます。
- 2 選択ツールを使って、バーコードを選択します。複数のバーコードを同時に選択することもできます。
- 3 [フィルタ] メニューから [Barcode Filter] を選び、表示されるサブメニューから [バーコード情報出力] を選びます。[バーコード情報出力] ダイアログが表示されます。



- 4 [ファイル指定] をクリックします。保存ダイアログが表示されるので、保存先のフォルダとファイル名を指定し、[保存] をクリックしてください。
指定されたファイルの名前が [バーコード情報出力] ダイアログに表示されます。

- 5 [バーコード情報出力] ダイアログの [OK] をクリックします。
操作 4 で指定したファイルに、操作 2 で選択したバーコードのデータが書き出されます。

※変換後のバーコードはグループオブジェクトに情報が記憶されています。グループ解除や、他のオブジェクトとグループ化するとバーコード情報は出力できません。

※イラストレータ 5.5J/7.0J 版で作成したバーコードでは、本バージョンの [バーコード情報出力] は使用できません。

ファイルの形式

バーコード情報の出力機能を使って出力されるタブ区切りのテキストファイルには、次の順序でバーコード情報が書き込まれます。

1	バーコード種別 ※	11	情報 ON/OFF
2	バーコード位置 (X)	12	モジュール幅
3	バーコード位置 (Y)	13	細エレメント幅
4	補正值	14	太エレメント幅
5	拡大率	15	バーコード位置 (右 or 左)
6	高さ	16	C/D 有無
7	ベアラー ON/OFF	17	CODE 有無
8	ベアラー幅	18	バーコード入力文字列
9	トンボ ON/OFF	19	バーコードメモ
10	OCR ON/OFF		

※バーコード種別には、以下の文字列で、作成するバーコードの種類が書き込まれます（DUC は物流商品コードの、JAN-S は JAN 短縮の意味です）。

JAN	JAN-S	JAN-OCR	JAN-S-OCR
ISBN	UPC-A	UPC-E	DUC
ZIP	NW7	CODE39	CODE93
CODE128	ITF	INDUST2OF5	COOP2OF5

バーコードメモ

[バーコードメモ] パレットにバーコードの補助情報として、例えば商品名や作成担当者などいろいろな情報をメモとして記録することができます。表示されていない場合は、[ウインドウ] メニューから [バーコードメモを表示] を選びます。

バーコードメモに補助情報を入力するには、次のように操作します。

- 1 選択ツールを使って、バーコードまたは文字列を選択します（メモはバーコード変換前でも変換後でも入力することができます）。また、複数のバーコードや文字列を同時に選択することもできます。
- 2 [バーコードメモ] パレットに情報を入力します。

※複数のバーコードに同じメモ情報を入力したデータをテキストファイルへ出力し、その出力ファイルを使ってバーコード自動作成（ファイル名にメモ情報を使用する設定）すると、上書き保存されますのでご注意ください。

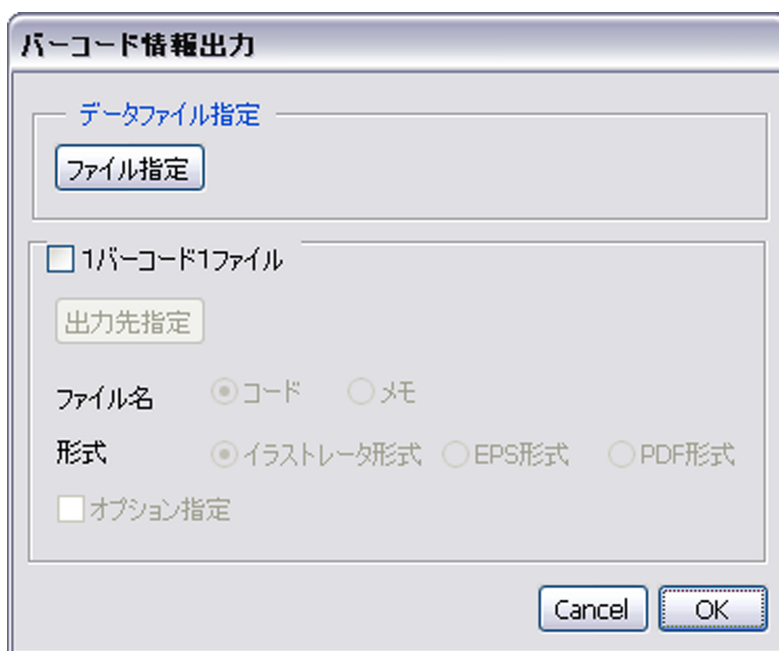
テキストファイルからのバーコード自動生成

バーコード情報の機能を使って出力したタブ区切りのテキストファイルを使って、バーコードを自動作成することができます。

タブ区切りのテキストファイルに複数のバーコードデータ（行）が含まれている場合は、一度の操作でその数（行数）のバーコードがすべて作成されます。また、各行をそれぞれ別のファイルとして作成することもできます。

タブ区切りのテキストファイルからバーコードを作成するには、次のように操作します。

- 1 Illustrator を起動し、新規ドキュメントを開きます。
- 2 [フィルタ] メニューから [Barcode Filter] を選び、表示されるサブメニューから [バーコード自動作成] を選びます。
[バーコード自動作成] ダイアログが表示されます。



- 3 [ファイル指定] をクリックします。
オープンファイルダイアログが表示されます。
- 4 タブ区切りのテキストファイルが保存されているファイルを選択し、[開く] をクリックします。
[バーコード自動作成] ダイアログに選択したファイルの名前が表示されます。

5 必要な場合には、ダイアログの設定を変更します。



自動作成されるバーコードを 1 ファイルずつに分けて作成する場合は、[1 バーコード 1 ファイル] にチェックを入れ、次の設定をします。

出力先指定：作成されたバーコードファイルの保存先を指定します。

ファイル名：コード、メモのどちらかを選びます。

[コード] バーコードのコード（文字列）をファイル名にして保存します。

[メモ] 「バーコードメモ」のデータをファイル名にして保存します。

ファイルの保存形式：イラストレータ、EPS、PDF 形式の中からひとつ選びます。

[イラストレータ形式] イラストレータ形式で保存します。

[EPS 形式] EPS 形式で保存します。

[PDF 形式] PDF 形式で保存します。

オプション指定：各種形式で保存時に毎回オプションを指定する場合はチェックします。

ファイル名に使用できない文字列がコードまたはメモに指定されている場合、ファイル名を指定するためのダイアログが表示されます。

6 [OK] をクリックします。指定された方法で、バーコードファイルが作成されます。

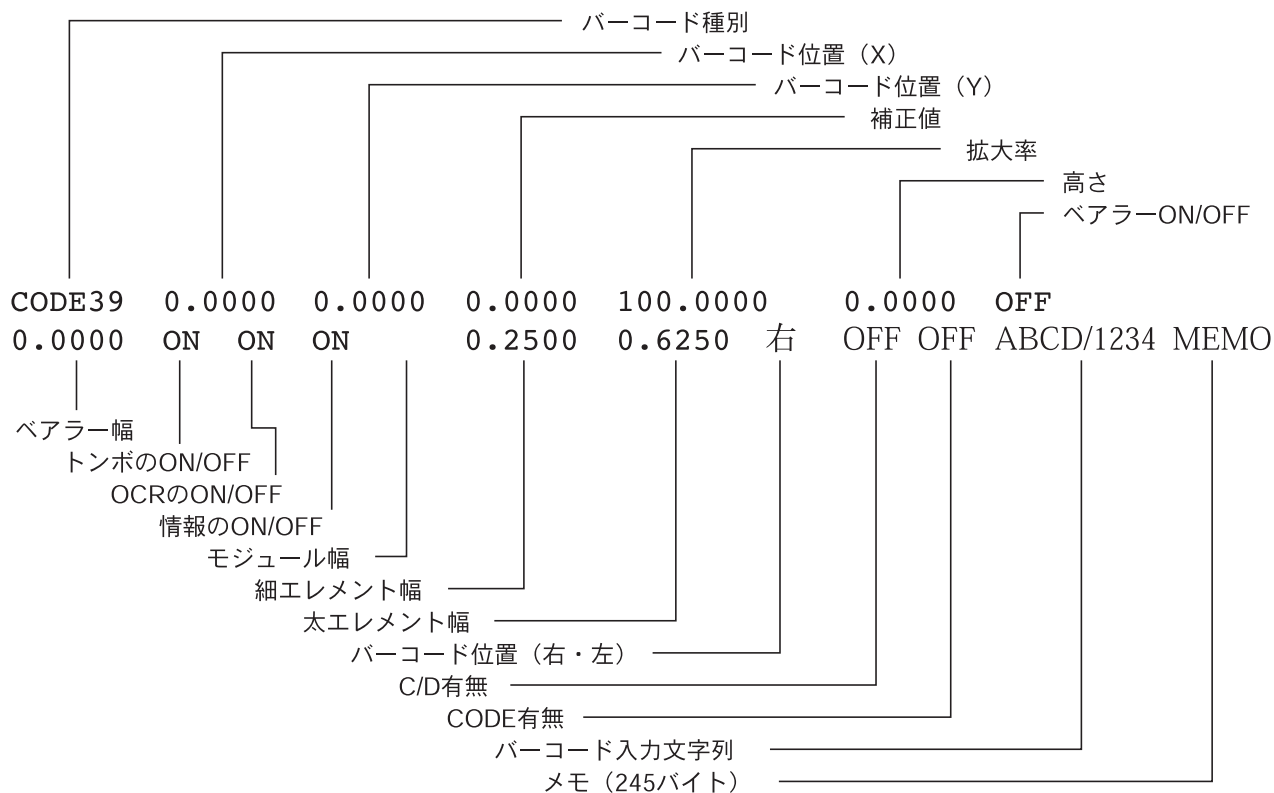
●自動作成プラグインでバーコードを自動作成した場合、テキストファイルにバーコード位置の X 軸および Y 軸の値が入力されていても、これらの値が無視され、画面中央に作成されます。

● [1 バーコード 1 ファイル] で作成されるファイルは、自動的に保存されます。上書き保存にご注意ください。

使用するファイルは、通常のタブ区切りテキストです。このため、Barcode Filter for CS4 のバーコード情報出力機能を使って出力したファイルでなくても、同じ形式で記述されたファイルであれば、使用することができます。したがって、あらかじめデータベースなどを使ってデータを一括入力しておき、データベースのデータをタブ区切りテキストとして書き出すことによって、一括してバーコードに変換することができます。使用できるタブ区切りテキストファイルの形式については、次ページの説明を参照してください。

タブ区切りファイルの形式

バーコードの自動作成に使用するタブ区切りファイルを自作する場合は、次の順序でデータをタブで区切って保存してください。



タブ区切りのテキストファイルには、すべてのフィールド（タブで区切られた部分）にテキストが入力されるわけではありません。たとえば、上の CODE39 の例では、「モジュール幅」に対応するデータは入力されていません。こうした場合は、フィールドを空白（タブ文字のみ）にしておいてください。

自動作成の場合、データの位置は、タブの数で判断します。このため、データがないからといってタブを省略してしまうと、その前のデータとして判断されてしまい、正常にバーコードを作成することができなくなります。必ずタブ文字だけを入力して、空白のフィールドを作成しておいてください。

バーコードの自動作成に使用するテキストファイルの各行には、必ず 18 個のタブが必要です。また、最後にリターンを入力してください。このリターンがない場合、最後のバーコードデータが認識されません。

イラストレータのアクションの利用

Illustrator CS4 には、「アクション」と呼ばれるスクリプト機能があります。このスクリプト機能を使って、データの書き出しやテキストファイルからのバーコードの自動作成を自動化することができます。

アクションの詳しい使用方法については、Illustrator CS4 の説明書を参照してください。

たとえば、テキストファイルに規格外の文字が入力されていたなど、正常にバーコードに変換できない場合は、自動的にアクションが中断され、続行するか中止するかを決めるためのダイアログが表示されます。こうした場合には、いったんアクションを中止し、エラーの原因を解決してからアクションを再実行してください。

FAQ

Q. バーコードの最後の桁に任意の数字を入りたいのですが入りません。

A JAN などのように、規格によっては最後の桁がチェックデジットになっているものがあります。

このような場合、Barcode Filter for CS4 ではチェックデジットを自動的に作成しますので、最後の桁に任意の数字を入れることはできません。

チェックデジットとは、バーコードがリーダーで読み取られる際に誤読を防止するためや、偽造を防止するために付加されているコードです。

例えば、JAN の場合 12 桁の数字を入力すると、自動的に 13 桁のバーコードが作成されます。

Q. バーコードを印字しましたが、バーコードリーダーで読めません。

A 以下の事が考えられますので、ご確認ください。

- ・出力したバーコード色が薄い。または、赤色のバーコードである。
- ・バーコードリーダーの性能に対してバーコードが小さすぎる、紙質が合わない、プリンターの解像度が低い
- ・バーコードリーダーの設定が間違えている、または故障している

Q. CODE128 をコード入力で作成したいのですが、バーコードに変換されません。

A 次の点をご確認ください。

- ・最初の 3 桁が [103] [104] [105] のいずれかで始まっているか
- ・入力コードの桁数が 3 桁以上 192 桁以内で、3 で割り切れる桁数か

Q. CODE93 をコード入力で作成したいのですが、バーコードに変換されません。

A 入力コードの桁数が 2 桁以上 128 桁以内で、2 で割り切れる桁数かご確認ください。

Q. OCR 文字がずれたりして、正常に変換されません。

A テキストツールで入力する際、インデント、カーニング、詰め、行方向と列方向の比率など文字に関する設定が行われていないかご確認ください。

Q. ベアラーやトンボ、OCR 文字の位置が作りたい仕様と異なります。全く同じものをつくるにはどうしたらいいですか。

A 作成されたバーコード（ベアラー、トンボ、OCR 文字を含む）はイラストレータのオブジェクトですので、自由に位置を変更することができます。任意の場所に移動してください。

バーコードのまわり（バーコードとトンボやベアラーの間）には余白が必要であり、それは対応する規格ごとに余白幅が定められています。変換されたバーコードは規格に沿った余白を持っていますが、お客さまが任意に移動されたバーコードデータに関する保証はいたしません。

Q. 作成したバーコードが読めるかどうか心配です。確かめるにはどうしたらよいでしょうか。

A 市販のバーコードリーダーをご購入の上、読み取りの検証を行ってください。当社では、お客さまの作成したデータの読み取り検証はいたしておりません。

Q. Barcode Filter for CS4 でバーコードを作成する際、[API エラー] のアラートが表示され、バーコードが作成できません。(その他、イラストレータ上で起きるエラーの場合)

A 以下の対処法をお試しく下さい。対処法は、エラー解決されやすい順に記載していますので、1 から順に（1 を実行してエラー解決されない時は 2 を実行する）ひとつずつ実行してください。

1. 作業中のファイルにエラーの原因となるデータが含まれている場合がありますので、新規ファイルを作成し、その上で Barcode Filter for CS4 を実行してみる。
2. マスター CD からフィルタの再インストールをする

Q. [バーコード情報出力] フィルタで情報を出力しましたが、出力されたテキストファイルには何も書き出されません。

A 情報出力したいバーコードがイラストレータ 8.0J/9.0J 上で作成されたものか確認してください。イラストレータ 5.5J/7.0J で作成したバーコードでは、[バーコード情報出力] は使用できません。

Q. 「Barcode Filter 用の dongle がみつかりません。ご確認ください」というエラーが出ます。

A 以下の対処法をお試しく下さい。

- ・コンピュータを再起動する
- ・「Barcode Filter」の dongle が確認し、コンピュータ本体の USB ポートに深く 差し込む
- ・ドライバーがインストールされているかどうか確認する。
(ドライバ：Sentinel_HASP)

これらの項目を確認してもエラーが出る場合、dongle が破損している可能性がありますので、弊社までご連絡ください。

よくある質問やアップグレードのご案内など、最新情報は弊社ホームページにてご覧いただけます。
<http://www.n-projects.co.jp/>

お問い合わせ先

お問い合わせの前に 54 ページの「FAQ」をお読みいただき、該当する内容がないかお確かめください。

バーコードの規格に関するご質問について

本製品は文字列を入力し、変換したいバーコード規格をメニューから選択するようになっていますので、作成したいバーコードの規格が分からない場合はバーコードに変換することができません。

バーコードにはそれぞれ対応する規格があり、規格から外れたバーコードを作成すると読み取りができない場合がありますので、規格については発注先様などにお問い合わせください。

当社では以下のようなバーコードの規格内容に関するご質問にはお答えできません。あらかじめご了承ください。

- どの規格を使用すれば良いのか（規格の不明なバーコードや発注先様からの仕様書をファクスで送信され
てのご質問）
- ダイアログの入力欄にどの値を入力すればいいのか（発注先様からの仕様書をファクスで送信されてのご質問）
- ある規格のバーコードをどこまで縮小できるのかといった規格内容に関するご質問

JIS 規格で定められているバーコードに関しては、作成の注意事項等が JIS 規格で定められています。日本規格協会発行の各仕様をご覧ください。また、JIS 以外の規格で定められているバーコードについても、それぞれ対応する規格があります。詳しくは、該当する規格の仕様書または市販のバーコード解説書をお読みください。

また、作成されたバーコードの精度は出力機に依存します。当社では精度に関する保証はいたしません。

お問い合わせの際はユーザ登録の確認をさせていただきますので、下記事項をご記入の上、ファクスか E-mail にてお願いいたします。また、ご質問用フォームをご用意しておりますので出力してご利用ください（「ご質問の際に」フォルダにファイルがあります）。

- 御社名
- 電話番号
- ご担当者様名
- お問い合わせ内容

株式会社 N- プロジェクト

ファクス：06-6312-0771

E-mail ：support@n-projects.co.jp